



熊本城が見えました

先日、つくしの部屋にあがって、何気なく南側の窓から外を眺めると正面に熊本城が見えました。少しかすんでいましたので、ぼんやりとした熊本城ではありましたが、その風景にちょ

っと驚きました。

熊本市役所やホテルキャッスルよりも高く、大きなビルのなかった頃には、さぞかし大きくそびえていたことだろうと思います。ましてや、築城された500年前の頃の人々には、とてつもなく大きなお城にびっくりされたことだと思います。

でも、私は昨年1年間、このつくしの部屋から熊本城が見えることに気づいていませんでした。私たちが見るもの、見えるものというのは、こんなものかもしれません。利用者の様子や保護者の思いなど、よく理解しているつもりが、見当違いのところを見ていることも多いのではないのでしょうか。

いま一度、いろいろなことをしっかりとみて、考えて、取り組んでいきたいと思いました。

ありがとう

これもつくしの部屋にいる時のことですが、私の後ろを歩いて通った利用者の方から「ありがとう」の声が聞かれました。何があったのかはわかりませんでした。利用を始めて2カ月の高木睦さんでした。

利用を始められた頃は、少し緊張もあったのでしょう、黙っておられることも多かったようですが、最近ではすっかりつくしの一員となられ笑顔とお話の絶えない日々ようです。

以前にも書いたかと思いますが、手伝いをしてもらったり、お仕事をし終えた時には「ありがとう」の声かけをしましょうと。でも、自分の生活を振り返ってみると、あんまり言っていないあと反省しています。普段は、連れ合いとの二人暮らしですから、交わす会話も少なくなってきました。それでも、生活の潤滑油として「ありがとう」を言わなければと思ったところでした。



手と手を合わせて しあわせ

ずいぶん前の仏壇か何かのTVコマーシャルであったコピーだと思いますが、10日(土)の花心調理実習での一コマからこのことばを思い出しました。

それぞれに食べ終わって、調理室に食器をもって片付けに行くとき、内田さんがそっと手を合わせ「ごちそうさま」をしていました。ふだん、家庭の方でもしているから自然と出てきたのだと思いますが、いいなあと思いました。

みんなと一緒にだとしても、一人ではなかなかしない「いただきます」「ごちそうさまでした」。作ってくれた人や食べられることに感謝をする気持ちは大事にしていきたいですね。

ちなみに、花心ではハヤシライスと野菜スープと玉ねぎサラダを作りました。包丁遣いも上手で、誰一人けがをすることもなく、おいしいものが出来上がりました。参加者も13人と普段の土曜日よりも多く、楽しい時間を過ごしました。

